The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会 会報

2021.11
No.131

目　次

MBSJ

特定非営利活動法人
日本分子生物学会
https://www.mbsj.jp/

第45回
日本分子生物学会年会
日本生物物理学会 共催
2022年11月30日(水)～12月2日(金)
幕張メッセ
年会長：深川 竜郎（大阪大学大学院・生命機能研究科）
MBSJ
演題登録期間
2022年7月1日～7月29日(金)
事前参加登録期間
2022年7月1日～10月7日(金)
分子生物アゴラ
激論コロッセオ

令和４年度（第 44 回）通常総会のご案内

令和 3 年 11 月

会員各位

特定非営利活動法人　日本分子生物学会
理事長　白髭　克彦

以下の要領で第 44 回通常総会を開催しますので、お知らせいたします。

ご承知のように、本法人の重要な案件は総会で決定されます。総会成立には、正会員、名誉会員、シニア会員、次世代教育会員の総数の 1/2 以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

記

日　　時：令和 3 年 12 月 2 日㈭ 19：30〜20：30
会　　場：パシフィコ横浜 会議センター 4 階 414・415（第 11 会場）
※第 44 回年会にオンライン参加される方は Zoom Webinar で視聴いただけます。
予定議題：1）経過報告（理事長報告、庶務報告、編集報告、その他）
2）令和 3 年度（2021 年度）決算承認の件
3）令和 4 年度（2022 年度）活動予算書承認の件
4）その他

◎以下のいずれかの方法でご出欠回答をお願いいたします。
ご都合がつかない場合には、必ず委任状をご提出ください。
①学会ホームページに設置されている出欠回答（委任状）フォーム
（右の QR コードからアクセス）
②学会よりメール配信された回答フォーム（11 月初旬配信）使用によるメール送信
③新年度の会費請求書（11 月上旬発送）に同封されている出欠はがき

年会プログラム集・会報 131 号の冊子発送見合わせについて

2021 年 11 月

会員の皆様

来る 12 月 1 日㈬より開催予定の第 44 回年会は、COVID-19 の感染状況に柔軟に対応できるよう、通常の現地開催に加え、オンライン参加（発表・視聴）も可能としております。このハイブリッド形式での開催準備に必要な予算を確保するひとつの措置として、本年会では冊子体のプログラム集の発行を見合わせることとなりました。プログラムや横浜会場の感染対策（安心ステッカーの発行）など、年会に関する最新情報は年会ホームページでアップデートしておりますので、ご確認くださいますようお願いいたします。

また、環境への配慮と経費削減の観点から、例年プログラム集冊子とあわせてお送りしている会報（本 131 号 /2021 年 11 月号）が、冊子体から PDF 版に変更となります。学会ホームページでは本号のほか、会報のバックナンバーもご覧いただけます。

年会の企画公募や演題投稿など学会からの重要なお知らせは、随時メール配信でご案内しております。学会にメールアドレスを登録されていない方は、ご登録のお手続きをお願いいたします（13 頁参照）。

第 44 回日本分子生物学会年会（MBSJ2021） 開催のお知らせ（その 4）

会　　　　期：	2021 年 12 月 1 日㈬～3 日㈮（3 日間）
会　　　　場：	パシフィコ横浜・オンライン
年　　会　　長：	塩見 美喜子（東京大学大学院 理学系研究科）
年会事務局連絡先：	第 44 回日本分子生物学会年会事務局（㈱エー・イー企画 内） 〒 101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4 階 Tel: 03-3230-2744　　Fax: 03-3230-2479　　E-mail: mbsj2021@aeplan.co.jp
年会ホームページ：	https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2021/

※本年会では、冊子体のプログラム集は発行いたしません。詳細は年会ホームページをご確認ください。

【年会長の挨拶 その 5】

MBSJ2021Yokohama の開幕まで、あと 21 日となりました。この半年間、文字どおり毎日、「国内の新型コロナ発生状況」を Yahoo!JAPAN で追い、ほんの僅かな数字のアップダウンにも一喜一憂してきました。この“冷や汗を伴う緊張感”（a.k.a.“毎日がロシアンルーレット”）は 12 月 3 日の夕方まで続くのかと思うと、早く終わって開放されたいような、一方では、発生状況の低空飛行が数ヶ月持続するのを見届けてから始まってほしいような、で、心中、非常に複雑です。分生の横浜年会は今年で 10 回目。「横浜ヒストリア」企画の一環として、9 名の歴代横浜年会長へのインタビューを進めて参りました。その内容は現在、小冊子にまとめつつあり、年会中に配布予定ですが、今回の様な“負の緊張感”を伴った年会準備をご経験された先生は皆無であったろうと察します。塩見さんは貧乏くじを引いた？　そうかもしれません。一方、このような過酷な状況下にあっても、事前登録者数は我々の期待を大きく上まわり 4,200 に到達、シンポジウム、ワークショップ、フォーラムはそれぞれ 27、90、14、そして一般ポスター演題は 2,453、高校生の発表も 25 演題と例年には及ばずとも負けず劣らずの範疇に収まり、これは、ひとえに MBSJ 会員の（そして非会員の）皆様の、横浜年会に参加したい、発表したい、議論したい、そして仲間に会いたい、という強い気持ちの表れであると、心より感謝せずにはいられません。そして、一足早いですが、コロナ禍で年会準備をここまで牽引して下さった組織委員の先生方、感染安全対策委員の嘉糠先生、エー・イー企画と MBSJ 事務局の皆様、そしてご支援賜る多くの関連企業の方々に、心より感謝致します。目下、11 月 17 日から始まる「後期-当日参加登録者数」の伸びが気になるところです。新型コロナ発生状況に左右されることは必至で、よって私の“毎日がロシアンルーレット”はあと 3 週間続きますが、それに耐えるだけの体力と精神力は温存する所存です。

東京近辺で緊急事態宣言が解かれ、はや 1 ヶ月余りが経とうとしています。街行く人々はまだマスク姿ではあるものの、マスクを頭の中でバーチャルに消し去って見ると、コロナ騒動があったなんて思えないくらい、人々は楽しそうに、忙しそうに街中を行き交っています。11 月に入り少しずつ目立つのは、キャリーケースを引く、あるいは結婚式の引き出物袋をもった人々。朝採れ野菜の市場に行ってみると、ソーシャルディスタンスは数十センチ程度、街中のグロッサリーストアのレジにある足跡シールに、あれ？これって何の意味があるんだっけ？と、一瞬、記憶を辿らせるのは私だけでしょうか。東京駅近くの行幸通りは、ワクチン接種会場と化して久しいですが、最近は、案内人さん達もとても暇そうに見えます。目が合うと「接種いかがですか？良いワクチンがありますよ！」と勧誘されそうで、それを避けるために下をむきつつ通り去る今日この頃です。ワクチンも十分保管されている様子、3 回目を打つなら（確かな効果があるなら）早く始めたら良いのにと思いますが、世界を先取ることが苦手な我が国のお偉方は、他国の様子を今なお覗っているのでしょうか。

世界を先取ることが苦手といえば、Biology の世界も然り。日本は「適合性」を重んじるより「多様性」を促進しようね、と言われて久しく、日本の科学基盤の近代化は遅れているからフットワークを軽くして早くどうにかしなさい、という意見も聞こえてきます。今年 10 月、ノーベル物理学賞を受賞された米国在住の眞鍋淑郎博士は、好奇心に満ちた基礎研究の支援と学問の自由の重要性を日本政府に進言しました。一方、日本の国際的研究ランキングは 10 位へと下落し、我が国の科学技術立国としての立ち位置は不安定さを増しています。我が国のサイエンスの生き残りを賭けた、そしてそれを担う有能な次世代科学者の育成のため、今、新たな視点からの科学政策改革と研究インフラ整備が必要です

(Shang et al Nature, Nov 9, 2021)。そこで急遽、緊急フォーラム「我が国の研究基盤の活性化への挑戦」― 次世代の研究者のためにどのような科学政策と研究インフラ整備が必要かを考える―を企画しました（初日 19：15 〜）。お時間が許す限りご来場いただき、多数のご意見を賜れますと幸甚です。あれ、塩見さんは同時刻開催の「EMBO-MBSJ 合同フォーラム：EU 留学と若手キャリアアップ」のオーガナイザーでは？　はい、その通りです。浮気はしない主義ですので緊急フォーラムには参りません。が、いただきました貴重なご意見は明文化しパブリサイズする策を練りつつあるところです。

12 月 1–3 日、横浜で、会いましょう！皆様のご来場をお待ちいたします。

第 44 回日本分子生物学会年会
年会長　塩見 美喜子
（東京大学大学院 理学系研究科）
11 月吉日

We are only 21 days away from the start of MBSJ2021 Yokohama. For the past six months, I've been following, literally every day, the "new corona outbreaks in Japan" on Yahoo! Japan, feeling happy and sad for even the slightest ups and downs in the numbers. This "tension accompanied by cold sweat" (a.k.a. "every day is Russian roulette") will continue until the evening of December 3. I feel as if I want the meeting to be over soon so that I can be released from the tension. I also feel as if I want to see the outbreak remaining low for a few months before the meeting starts. By this, you see how complicated my mind is right now. This year is the 10th Yokohama annual meeting for MBSJ. As part of the "Yokohama Historia" project, Dr. Yuka Iwasaki, a member of the meeting committee, and I have been interviewing nine past Yokohama meeting presidents. The contents are now being compiled into a booklet, which will be distributed during the meeting this year, but I can assure you that no one among those nine professors has ever experienced such "negative tension" in preparation for the meetings. You might think "Dr. Siomi draw the short straw". It may be true. However, even under such harsh conditions, the number of pre-registrants exceeded our expectations and reached 4,200, the number of symposia, workshops, and forums reached 27, 90, and 14, respectively, the number of general poster presentations reached 2,453, and the number of high school students' presentations reached 25. I would like to express my heartfelt gratitude to all MBSJ members (and non-members, too) for their desire to attend, present, discuss, and meet their colleagues at MBSJ2021 Yokohama. I also would like to express my heartfelt gratitude to the members of the organizing committee, Dr. Kanuka, the infection safety committee, secretaries from A.E. Planning, the MBSJ secretariat, and the many companies who have kindly supported us. From now on, I will be concerned about the growth in the number of participants of late/on-site registration, which will begin on November 17. It will inevitably depend on the status of the new corona outbreak. This means that my "every day is Russian roulette" will continue for another three weeks, but I will conserve my physical and mental strength to endure it.

It has been more than a month since the state of emergency was lifted in the Kanto area. People on the streets are still wearing masks, but if you virtually erase the masks from your mind, you would never guess that there has been a covid-19 problem, as there are so many people happily and busily going on the streets. Since November 1st, I have witnessed people with carry-on cases or wedding gift bags. I occasionally go to the morning vegetable market, where the social distance is only a few dozen centimeters. In such circumstances, the footprint stickers at the checkout counter of the grocery store lately make me wonder, "What is this for?" It will take me some time to recall the meaning of it. I wonder if this is just me, or if you experience the similar…. The Gyoko-dori Avenue near JR Tokyo Station has long since become a public venue for covid-19 vaccinations, but lately the staff looks bored. If I make eye contact with them, they seem to be soliciting me, "Would you like a vaccination?" It seems that they have enough vaccines in stock. If the government decides to administer the third vaccination, if it is effective, why don't they start now? Our leaders, who seem not very good at anticipating the world, seem to be waiting what the other countries will do.

Speaking of not being good at anticipating the world, the world of Biology is no different. It is said for long by now that Japan should promote"diversity"rather than"conformity." Some say that Japan's modernization of its scientific infrastructure

is lagging behind and that we should do something new by lightening footwork. This October, Prof. Shukuro Manabe, a US-based Nobel laureate in physics, advised the Japanese government to support curious basic research and the importance of academic freedom. Around the same time, Japan's international research ranking has fallen to 10th place, and our position as a nation of science and technology is apparently becoming rather unstable. For Japan's science to survive and to nurture the next generation of talented scientists who will carry it forward, we need to reform our science policy and improve our research infrastructure from a new perspective. We are organizing an urgent forum, "The Challenge of Revitalizing Japan's Research Platform - What type of new science policy and research infrastructure development is needed for the next generation researchers? (Dec 1; 19:15～). We would be grateful if you could come and give us your opinions as much as you can. I am organizing "EMBO-MBSJ Joint Forum: Studying in the EU and Career Development for Young Professionals", which will be held at the same time. So, I won't appear at the urgent forum. However, I am working on a plan to reflect the valuable comments we received at the urgent forum somewhere in writing.
See you in Yokohama soon!

President of MBSJ2021
Mikiko C. Siomi
(Department of Biological Sciences,
Graduate School of Science,
The University of Tokyo)
As of early Nov

【プログラム】

シンポジウム	バイオテクノロジーセミナー
ワークショップ	機器・試薬・書籍等附設展示会
ポスター	特別展示「ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）」
フォーラム	オンライン展示会
キャリアパス委員会企画	
研究倫理委員会企画	

◆『緊急フォーラム !!　我が国の研究基盤の活性化への挑戦』
―次世代の研究者のためにどのような科学政策と研究インフラ整備が必要かを考える―
開催日時：12 月 1 日㈬ 19：15 ～ 20：45
会　　場：第 4 会場（パシフィコ横浜 会議センター 3 階「303」）・オンライン
オーガナイザー：阿形 清和（自然科学研究機構 基礎生物学研究所）
演　　者：柳沢 正史（筑波大学）、Piero Carninci（理化学研究所）

◆ EMBO-MBSJ 企画
開 催 日：12 月 1 日㈬
会　　場：第 11 会場（パシフィコ横浜 会議センター 4 階「414＋415」）・オンライン

15：45～18：15	EMBO-Japan Virtual Lecture Event How do piRNAs defend the germline genome from invasive transposons?
19：15～20：45	EMBO-MBSJ 合同フォーラム：EU 留学と若手キャリアアップ

◆横浜ヒストリア企画
過去の横浜年会の年会長にインタビューした内容をまとめた小冊子を現地参加者に無料配布します。
また、過去に横浜で開催した年会のポスターや要旨集の展示コーナーを設置予定です。

◆高校生研究発表

開催日時：12月3日㈮ 13：00～15：30

会　　場：パシフィコ横浜 展示ホール・オンライン

◆市民公開講座「生命科学研究を職業にする」

講演1「データサイエンス化するゲノム生命科学」岩崎 由香（慶應義塾大学）

講演2「やさしいゲノム生命科学入門（ウエット編）」胡桃坂 仁志（東京大学）

パネルディスカッション「研究する楽しみとは」

開催日時：12月3日㈮ 18：45 ～ 20：15

会　　場：第1会場（パシフィコ横浜 会議センター1階「メインホール」）・オンライン

進　　行：小林 武彦（東京大学）

パネリスト：塩見 美喜子（東京大学）、東山 哲也（名古屋大学 / 東京大学）、
岩崎 由香（慶應義塾大学）、胡桃坂 仁志（東京大学）

※参加費無料、事前申込不要

※オリジナルソング「毎日がPCR」（作詞：小林 武彦、作曲 / 歌 / ギター：胡桃坂 仁志）の生演奏あり

【開催形式】

本年会はCOVID-19の感染拡大の状況に柔軟に対応できるよう、通常の現地開催に加え、オンライン参加（発表・視聴）を可能とするハイブリッド形式で開催します。

〈口頭発表〉

すべての口頭発表はZoomウェビナーによるライブ配信をいたします(事後のオンデマンド配信は行いませんので、ご注意ください)。ZoomのQ&A機能や挙手機能を用いて、オンライン参加者の質疑も受け付けます。

〈ポスター発表〉

ポスターのオンライン発表形式は、オンライン視聴サイト独自のビデオ通話機能を用いたライブディスカッションとなります。また会期3日間を通じて、現地発表のポスター演題を含む全ポスター演題の発表資料をオンライン視聴サイト上で閲覧可能とし、掲示板機能や発表者への質問機能を用いた質疑応答を行うことができます。

【感染症対策】

〈安心ステッカー〉

ワクチン接種済みまたはPCR検査陰性を示す書類等を提示できる現地参加者には、「安心ステッカー」を発行することになりました。ステッカーの所持者には会場でお好きなドリンクもしくはスナックと交換できるチケットを提供いたします。

■ドリンク / スナック交換チケット提供枚数
- 正会員、学生会員、非会員の安心ステッカー所持者：1枚
- 学部学生の安心ステッカー所持者：3枚（3日間の会期中に各日1枚使用可）

事前参加登録を完了した「安心ステッカー」申込者には、参加章と一緒にドリンク / スナック交換チケットを発送いたします。

後期−当日参加登録をされた方は、現地にてお申込みいただけます。ワクチン接種済みまたはPCR検査陰性を示す書類等を忘れずにご持参ください。

〈年会会場での抗原検査サービスのご案内〉

参加者が年会会場で新型コロナウイルスの抗原検査を受けられるサービスを実施する予定です。

事前申込により、約300名を受け付けます（「ワクチン接種済みまたはPCR検査陰性を示す書類等」を提示できない方を優先します）。

費用は無料です。抗原検査結果が陰性の場合、安心ステッカーとドリンク / スナック交換チケットをお渡しします。抗原検査の事前申込は11月15日より年会ホームページにて受付を開始しております。

〈ご来場の前に〉
- 下記に該当する場合は、現地参加は控え、オンラインでご参加ください。

・37.5度以上の発熱、咳・咽頭痛・息苦しさ・疲労倦怠感や味覚・嗅覚異常等の症状があり、体調が優れない人 ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域等への渡航並びに当該国・地域の在住者と濃厚接触歴がある人 ・その他、感染の疑いがある人

〈ご来場される方へのお願い〉
- マスクの着用の徹底にご協力ください。
- 定期的な手洗い・消毒・うがいにご協力ください。
- 不要になったマスクはお持ち帰りください。
- 飲食をする際（休憩場所やランチョンセミナー等）、マスクを外した状態での会話は極力控え、黙食の徹底をお願いします。
- 神奈川県「LINEコロナお知らせシステム」、厚生労働省「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」にご登録ください。

■神奈川県「LINEコロナお知らせシステム」

各施設エントランスに掲示してあるQRコードを読み込み、県のLINE公式アカウントに登録することで、感染者が訪れた場所を同じ時間帯に訪れた方に対してLINEメッセージが送信されます。

■厚生労働省「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」

アプリをインストールし利用に同意をすることで、スマートフォンの近接通信機能（ブルートゥース）を利用して、プライバシーを確保しながら感染者と接触した可能性について通知を受け取れます。

Google Play　App Store

〈現地会場での対策〉

①サーモグラフィーの設置

会議センター、展示ホール入口でサーモグラフィーでの検温を実施いたします。

※ 37.5 度以上の方は別途非接触型の検温器で再度計測いたします。

②飛沫感染防止グッズ

受付にはビニールシート、講演会場にはアクリル板を設置し、飛沫感染を防止いたします。

③消毒液の設置

受付 / 講演会場周辺に消毒液を設置いたします。また講演会場では発表や質疑が終了する毎にマイクを消毒いたします。

④会場内換気

会場内は空調・換気設備により、常に外の空気との入れ替えを行っております。

また講演会場の入口ドアは常時開放し、換気いたします。

⑤会場レイアウト

感染状況に応じて、最大収容人数を変更する等のレイアウト対策を行います。

⑥運営スタッフ

出勤前に必ず体温チェックを行います。

マスクの着用、および作業前の手指の消毒を徹底いたします。

飲食物の受け渡しを行うスタッフは使い捨て手袋を着用いたします。

※ 2021 年 11 月 17 日時点
最新情報はホームページをご確認ください。

【参加登録に関するご案内】

事前参加登録は 10 月 22 日㈮に締め切りました。以降の参加登録は下記要領にて受付いたします。

なお、事前参加登録を行った場合でも、10 月 25 日㈪までに参加登録費を振り込んでいない場合は、事前参加登録は無効ですので、後期–当日参加登録を行ってください。

〈後期–当日参加登録〉

1．オンライン登録

・受付期間：11 月 17 日㈬～12 月 3 日㈮
・受付方法：年会ホームページの「参加登録」ページよりお申し込みください。
・参加登録費決済方法：クレジットカード決済のみ
・現地へご来場いただける方は決済完了通知メールを出力いただくか、スマートフォン等で表示し、当日参加受付のスタッフにご提示ください。
参加章をお渡しいたします。

2．当日参加受付での登録

・受付期間：12 月 1 日㈬・12 月 2 日㈭　8：00～17：00
　　　　　　12 月 3 日㈮　8：00～15：00
・場所：パシフィコ横浜会議センター 2 階
・参加登録費決済方法：現金のみ

その他、参加手続きに関する詳細は、年会ホームページをご確認ください。
https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2021/

◆参加登録費

	事前参加登録 7/1 〜 10/22	後期–当日参加登録 11/17 〜 12/3
正 会 員	11,000 円（不課税）	13,000 円（不課税）
学生会員	3,000 円（不課税）	4,000 円（不課税）
非 会 員	15,000 円（税込）	17,000 円（税込）
学部学生 （会員・非会員問わず）	500 円 ※演題投稿者、院生は対象外	

※現地参加とオンライン参加の参加費は同額です。

※本年会ではプログラム集冊子の発行はいたしません。
オンライン視聴サイト（プログラム検索・要旨閲覧機能を含む）の代金はすべてのカテゴリーの年会参加費に含まれています。

※シニア会員と次世代教育会員は、直接、会場の参加受付でお申込みいただくか、オンライン参加希望の場合は年会事務局（mbsj2021@aeplan.co.jp）にお申込内容（①氏名②所属③会員番号）を明記したメールをご送付ください。

【オンライン視聴サイト】

オンライン視聴サイト（プログラム検索・要旨閲覧機能を含む）は、11 月 17 日㈬に公開しました。
本年会では、Web システムのみを採用し、アプリの作成はいたしませんので、ご注意ください。

ログインに必要な ID・パスワードは、事前参加登録完了者には 11 月 17 日㈬にメールでお知らせしております。
後期–当日参加登録の場合は、決済完了通知メールにログイン ID・パスワードの記載がございます。
当日会場で参加受付をした方には参加章にログイン ID・パスワードを記載してお渡しします。

年会ホームページ上のリンクより「オンライン視聴サイト」にアクセスしてください。

「オンライン視聴サイト」へのアクセスはこちらから
年会ホームページ https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2021/

【全体日程表】

12月1日（水）

- シンポジウム ワークショップ 9:00–11:15
- ﾊﾞｲﾃｸセﾐﾅｰ 11:40–12:30
- キャリアパス委員会企画 11：30–12：45
- シンポジウム ワークショップ 15：45–18：00
- ワークショップ 15：45–17：15
- ワークショップ 17：30–19：00
- フォーラム 19:15–20:45
- 貼付 → 展示会見学 → ポスター発表・討論 13:00–15:30 → 撤去
- 機器・試薬・書籍展示 10:00–17:00

12月2日（木）

- シンポジウム ワークショップ 9:00–11:15
- ﾊﾞｲﾃｸセﾐﾅｰ 11:40–12:30
- キャリアパス委員会企画 11：30–12：45
- シンポジウム ワークショップ 15：45–18：00
- ワークショップ 15：45–17：15
- ワークショップ 17：30–19：00
- フォーラム 19:15–20:45
- 富澤基金メモリアル 17：30–19：25
- 総会 19:30–20:30
- 貼付 → 展示会見学 → ポスター発表・討論 13:00–15:30 → 撤去
- 機器・試薬・書籍展示 10:00–17:00

12月3日（金）

- シンポジウム ワークショップ 9:00–11:15
- ﾊﾞｲﾃｸセﾐﾅｰ 11:40–12:30
- 研究倫理委員会企画 11:30–12:45
- シンポジウム ワークショップ 15：45–18：00
- 市民公開講座 18：15–20：15
- 貼付 → 展示会見学 → ポスター発表・討論 高校生研究発表 13:00–15:30 → 撤去
- 機器・試薬・書籍展示 10:00–15:30 → 撤去

MBSJ
第44回
日本分子生物学会年会
The 44th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan
市民公開講座
生命科学研究を職業にする
開催日時 2021年12月3日（金）18:15-20:15
会　場 パシフィコ横浜 会議センター 1F メインホール
※現地開催とオンライン開催のハイブリッド形式
MBSJ2021応援ソング「毎日がPCR」
約70年前にDNAの構造が発見されてから、遺伝子を中心とした分子生物学はものすごい勢いで進歩してきました。最近ではゲノム編集技術により、生命のデザインすらも可能な時代になっています。また、医療技術はもちろんのこと、環境や食料問題などの解決にも、分子生物学を含む生命科学の重要性は益々増加しています。
第一線で活躍する研究者が、若いみなさんに生命科学研究の魅力を紹介します。
プログラム ｜ 進行：小林 武彦 先生
年会長挨拶　塩見 美喜子 先生
ウエルカムソング「毎日がPCR」 胡桃坂 仁志 先生、小林 武彦 先生
講演1「データサイエンス化するゲノム生命科学」 岩崎 由香 先生
講演2「やさしいゲノム生命科学入門（ウエット編）」 胡桃坂 仁志 先生
パネルディスカッション「研究する楽しみとは」
モデレーター：小林 武彦 先生
パネリスト：塩見 美喜子 先生、東山 哲也 先生、岩崎 由香 先生、胡桃坂 仁志 先生
終わりに「毎日がPCR ーストロングバージョン」
胡桃坂 仁志 先生、小林 武彦 先生、塩見 美喜子 先生、東山 哲也 先生、岩崎 由香 先生
塩見 美喜子 先生 東京大学大学院 理学系研究科
小林 武彦 先生 東京大学 定量生命科学研究所
胡桃坂 仁志 先生 東京大学 定量生命科学研究所
岩崎 由香 先生 慶應義塾大学医学部 分子生物学教室
東山 哲也 先生 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所/東京大学大学院理学系研究科
お問い合せ先 ｜ 第44日本分子生物学会年会事務局
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 一ツ橋別館4階（株式会社エー・イー企画 内）
電話：03-3230-2744　FAX：03-3230-2479　E-mail：mbsj2021@aeplan.co.jp

キャリアパス委員会主催　ランチタイムセミナー2021

「若い頃・大学院の頃にやっておくべきことは？」

日　　時：2021年12月1日㈬11：30～12：45
会　　場：パシフィコ横浜 会議センター3階301
　　　　（第2会場）・オンライン
司　　会：石谷 太（大阪大学微生物病研究所）

●イントロダクション（事前アンケート結果報告）
石谷 太

●聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員
石谷 太（阪大）、井関 祥子（医科歯科大）、鐘巻 将人（遺伝研）、倉永 英里奈（東北大）、多田 政子（東邦大）、菱田 卓（学習院大）、平谷 伊智朗（理研）、斉藤 典子（委員長／がん研）

キャリアパス委員会では、学生・ポスドク・non-PI・PIなど異なる立場の方から、キャリアの色々な時期における目標設定や意識、目標達成に必要と思われることなどを調査するため、今年8月に事前アンケートを実施しました。

本セミナー当日は、皆さんからご提供いただいた情報をもとに、立場や年齢による違いや共通点を議論しつつ、学生や若手の皆さんのポテンシャル向上につながる情報を提供し、若い方々の前途にエールを送ります。様々な立場の参加者が相互理解を深めることのできる、楽しく有意義な企画にしたいと思います。

「文科省・若手官僚もの申す！　～AirBridgeと考える博士号の価値と活かし方～」

日　　時：2021年12月2日㈭11：30～12：45
会　　場：パシフィコ横浜 会議センター3階301
　　　　（第2会場）・オンライン
司　　会：鈴木 淳史（九州大学生体防御医学研究所）

●文部科学省ガツガツ若手ワーキンググループ AirBridge活動紹介
池田 宗太郎（文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学改革推進室 大学院第一係）

●聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員＆AirBridge
鈴木 淳史（九大）、岩崎 由香（慶應大）、夾生（道下）江利子（第一三共）、木村 宏（副委員長／東工大）、島田 緑（山口大）、林 克彦（九大）、斉藤 典子（委員長／がん研）、AirBridgeメンバー（調整中）

AirBridgeは、2020年10月に文科省若手職員が発起人となり立ち上がった「研究現場のリアルを議論する場」です。博士課程進学者の増加を目指すため、博士課程学生への経済的支援だけではなく研究室環境や研究指導等の学生・研究者を取り巻く課題にも着目し、その解決に向けた検討を進めると同時に、博士課程修了後の多様なキャリアパスのロールモデルを紹介するイベントなども実施しています。

本ランチタイムセミナーでは、生命科学系の博士人材が置かれている現状などについてエビデンスベースの情報共有を行い、5年後、10年後の未来も見据えた議論をしていきたいと思います。

※参加者の皆様にご自身のスマートフォン・タブレット端末等から専用サイトへアクセスしていただき、ご意見やセッション中に行うアンケートの結果などを横浜会場のスクリーン及びZoom Webinarでリアルタイム表示する「オーディエンスインタラクションツール（Slido）」を導入します。
※現地参加予定の方へ：横浜会場におけるランチタイムセミナーのお弁当取り扱い等については、第44回年会ウェブサイトより最新情報をご確認ください。
※オンライン参加予定の方へ：本セッションではZoom Webinar経由でのコメント受付等を行いません。現地参加の皆様と同様にSlidoでのコメント投稿やアンケート回答をお願いいたします。

研究倫理委員会企画・研究倫理ランチョンセミナー
「私たちはどのように自分の論文を発表すべきなのか？：変化しつつある学術雑誌の動向を探る」

日　時：12 月 3 日㈮ 11：30～12：45（75 分）
会　場：パシフィコ横浜 会議センター 3 階 304（第 5 会場）・オンライン

いま、学術雑誌の業界が揺れている。ひとつは、学術論文の無料公開を求める「プラン S」と呼ばれる構想である。この構想は世界中の研究資金助成機関が支援しているが、大手出版社がこの「プラン S」に無条件で賛同するかどうかは不透明である。オープンアクセス出版のオプションを選択した場合、100 万円以上の論文掲載料が研究者に求められる可能性がある。別の深刻な問題として、いわゆる「Paper Mill」と呼ばれる、論文代筆業者を介した論文の蔓延がある。学会誌に限らず、大手出版社で受理された論文にも、この Paper Mill の関与が疑われる論文が見つかっている。さらに最近、「Review Commons」という新しい論文投稿・査読の形も広まりつつある。

私たちが、自分たちの研究成果を論文として発表する際、また編集者や査読者として、他の研究者の論文をレビューする際、これらの学術雑誌業界の抱える問題を把握しておくことはとても重要である。今回の研究倫理ランチョンセミナーでは、最近の学術雑誌の状況について、実際に出版に携わる 2 人の講演者に話題提供してもらい、今後私たちがどのように論文を発表するのか、研究者の立場から考えて議論する機会にしたい。

●講演 1　Plan S とオープンアクセスの方向性
Matthew Lane（Oxford University Press、日本支社）
2018 年 9 月に、2020 年から全ての学術論文をオープンアクセスにするという革命的な Plan S が発表された。その発表に学術出版業界は大きく動揺したが、予定されていたスタートから 2 年がたった今、実際オープンアクセス出版はどうなっているのか？本プレゼンテーションでは、Plan S を含むオープンアクセスの最近の動向や今後の方向性について説明する。

●講演 2　組織的にニセ論文を「製造」している paper mill
湯浅 達朗（Genes to Cells 編集室）
Paper mill（論文工場）という、業績を増やしたい顧客の依頼でニセ論文の作成と投稿を繰り返す組織が暗躍し、ジャーナルを脅かしている。編集者や査読者に気付かれずに老舗出版社で出版に至ってしまうことも少なくない。ニセ論文によって組織的に引用されることで、被引用数が不正につり上げられている例も見られる。ニセ論文に対してどのような対策を取るべきかを考察する。

●研究倫理委員パネルディスカッション
中山 潤一（委員長 / 司会）、佐谷 秀行、仁科 博史、深川 竜郎、西山 朋子（以上委員）、白髭 克彦（理事長）、
Matthew Lane、湯浅 達朗

※現地参加予定の方へ：横浜会場におけるランチョンセミナーのお弁当取り扱い等については、第 44 回年会ウェブサイトより最新情報をご確認ください。

キャリアパス委員会報告

1. 第44回日本分子生物学会年会に関連して

演題発表者の属性調査について

今年はオンラインで年会参加登録手続きをする際の最初に行う「新規アカウントの申請」の画面に属性調査項目を設定し、研究者の属性に関するアンケートを行いました。ご回答くださった皆様、ありがとうございました。このデータ全体としては年会参加者の属性を示すものですが、本委員会では継続して行っている経年調査の形に合わせてここから演題発表者等のデータのみを抽出し、結果の集計を進めております。分析結果は学会HPでご報告いたします。

2. アンケートの実施

キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2021「若い頃・大学院の頃にやっておくべきことは？」事前アンケート

2021年8月6日～27日の期間、キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2021「若い頃・大学院の頃にやっておくべきことは？」事前アンケートを実施し、587名の方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。この調査結果をふまえ、年会企画の準備を進めております。調査結果はランチタイムセミナーでご報告し、学会HPにも掲載する予定です。

キャリアパス委員会　委員長　斉藤 典子

会員専用ページの利用について

個人会員（正会員・学生会員・次世代教育会員・シニア会員）は、学会ホームページ上に設けている「会員専用ページ」をご利用いただけます。「会員専用ページ」では、登録情報の確認・変更のほか、第38回（2015年）年会以降の要旨閲覧や年度会費のクレジット決済、会員検索などが可能です。登録情報が最新でない場合、学会からの郵送物がお手元に届かなくなるなど、ご不便をお掛けする可能性がございます。長期間アクセスされていない方は、「会員専用ページ」へアクセスしていただき、現在の登録情報をご確認くださるようお願いいたします。

ログインIDは数字6桁の会員番号です。ログインパスワードがご不明の場合は、ログイン画面よりオンラインで再設定ができます。個人情報の保護を考慮し、現在登録されているパスワードはお答えできませんのでご了承ください。

また、年会の企画公募や演題投稿など学会からの重要なお知らせは、「会員専用ページ」にご登録いただいているメールアドレス宛に随時メール配信させていただいております。メールアドレスを登録されていない方は、「会員専用ページ」よりご登録いただくか、学会ホームページより登録情報変更届をダウンロードいただき、メールアドレスをご記入の上、学会事務局までご送付くださいますようお願いいたします。

※パスワードの再設定には、「会員番号」と「会員専用ページに登録されているメールアドレス」が必要となります。登録されているメールアドレスが不明または受信不可の場合は、オフラインでの手続きとなります。学会ホームページより所定の再発行申請書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、学会事務局へご提出ください。新パスワードは数日中に郵送いたします。

※「会員番号」は、年度会費請求書に印字されております。お手元に学会からの郵送物がなくご確認いただけない場合は、学会事務局までお問合せください。

第 45 回日本分子生物学会年会（MBSJ2022） 開催のお知らせ（その 1）

会　　　　　期：2022 年 11 月 30 日㈬～12 月 2 日㈮（3 日間）
会　　　　　場：幕張メッセ　※一部オンライン開催の可能性あり
年　　会　　長：深川 竜郎（大阪大学大学院生命機能研究科）
共　　　　　催：日本生物物理学会
演 題 登 録 期 間：2022 年 7 月 1 日㈮～7 月 29 日㈮※予定
事前参加登録期間：2022 年 7 月 1 日㈮～10 月 7 日㈮※予定

年会事務局連絡先：第 45 回日本分子生物学会年会事務局（㈱エー・イー企画 内）
〒 101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4 階
Tel: 03-3230-2744　Fax: 03-3230-2479　E-mail: mbsj2022@aeplan.co.jp
年会ホームページ：https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2022/
※日本生物物理学会の会員は、日本分子生物学会の会員と同じ資格で本年会への参加・演題発表が可能です。

【年会長の挨拶 その 1】

第 45 回日本分子生物学会年会（MBSJ2022）の年会長を務めさせていただく、大阪大学大学院生命機能研究科の深川竜郎と申します。約 3 年前に、本年会をお引き受けした時には、まさか世界が、パンデミック状態になるとは、つゆほどにも思っていなく、参加者同士が密に議論できる会場を探すところから始めました。その結果、約 30 年ぶりに千葉県の幕張メッセを会場に選びました。広大なポスター会場を確保できたので、「激論コロッセオ」と銘打ち、熱い議論ができる年会を開催しようと思っておりました。また、日本生物物理学会と共催の形にして、分子生物学会のマンネリ感を少しでも払拭しようと、組織委員会の士気も上がっていました。しかしながら、昨年から今年にかけて、年会準備を進めるうちに新型コロナウイルスが流行し、思うような年会が開けるのか、不安を抱くようになってきたのも事実です。

ここ 1–2 年で、オンライン学会が浸透し、その便利さもあって、学会は PC 上で十分だという声も聞かれます。コロナ禍で学会に初参加した学生さんは、学会は PC 上でやるものだと思っているようです。しかし、実際に参加者同士が、顔を突き合わせ、未発表のデータについて、「ああでもない、こうでもない」と議論するうちに、研究の新しいヒントが得られ、研究が進んだり、あるいは実際に共同研究に発展したりするのも、学会の醍醐味です。したがって、約 1 年後の社会情勢は、予想はできないものの、これまで準備してきた方針に従って、基本的にオンサイト学会を幕張メッセで開催したいと考えております。幸いなことに、最近の感染者の急激な減少は、明るい兆しと思います。

先が読めないことが多く、不安定なご時世ですが、こんな時こそ、皆が楽しめて、「参加してよかった」と思えるような年会ができればと思っております。もちろん、オンラインを取り入れざるを得ない状況になれば、柔軟に対応する所存です。皆様方の積極的なご参加をお待ち申し上げております。特に、若い層の会員には、「学会とは、こんなに面白いものだ。次回も参加して、より良いデータを発表したい」と思えるような高揚感を味わっていただけると幸いです。会員皆様の厚いご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2021 年 11 月
第 45 回日本分子生物学会年会（MBSJ2022）
年会長　深川 竜郎
（大阪大学大学院生命機能研究科）

【年 会 組 織】

組織委員会

年　　会　　長：深川　竜郎（大阪大学大学院生命機能研究科）
副　年　会　長：永井　健治（大阪大学産業科学研究所）
組 織 委 員 長：原田　慶恵（大阪大学蛋白質研究所）
プログラム委員長：甲斐　歳惠（大阪大学大学院生命機能研究科）
組　織　委　員：樺山　一哉（大阪大学大学院理学研究科）
神田　元紀（理化学研究所生命機能科学研究センター）
須藤　雄気（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）
野間健太郎（名古屋大学大学院理学研究科）
茂木　文夫（北海道大学遺伝子病制御研究所）

プログラム委員会

プログラム委員長：甲斐　歳惠（大阪大学大学院生命機能研究科）
プログラム委員：石井　　優（大阪大学大学院生命機能研究科／医学系研究科）
岡田　康志（理化学研究所生命機能科学研究センター／東京大学大学院理学系研究科）
古寺　哲幸（金沢大学ナノ生命科学研究所）
立花　　誠（大阪大学大学院生命機能研究科）
林　久美子（東北大学大学院工学研究科）
坂内　博子（早稲田大学先進理工学部電気・情報生命工学科）
廣瀬　哲郎（大阪大学大学院生命機能研究科）
谷内江　望（The University of British Columbia, School of Biomedical Engineering）

【プログラム概要】

◆プレナリーレクチャー（一般公開を予定）

予定講演者　※ 2021 年 11 月時点

Stefan W. Hell (Max Planck Institute for Biophysical Chemistry/ Max Planck Institute for Medical Research, Germany)
Anthony Hyman (Max Planck Institute of Molecular Cell Biology and Genetics, Germany)
Alice Ting (Departments of Genetics, Biology, & by courtesy, Chemistry, Stanford University, USA)

◆指定シンポジウム（全 10 テーマ）

以下の 10 テーマで指定シンポジウム企画の開催を予定しております。

“Tag, catch, and see” Frontiers of biomolecular labeling technology

Organizers: Hiroko Bannai (Waseda University), Min Zhuang (ShanghaiTech University)

How, when, where, and why do genes and proteins behave the way they do? With what molecules do the gene and the protein of interest interact? These are very important questions for understanding the molecular mechanism underlying the biological phenomena. To answer these questions, it is indispensable to develop technologies that enables us to label and analyze the target biomolecules specifically. In this symposium, the speakers will present their latest research in molecular labeling technologies for biomolecular interactions, for proteomics analysis of specific membrane regions, and live cell imaging with high spatiotemporal resolution. Two proximity labeling techniques described here (PUP-IT and SplitTurbo ID) have contributed to the identification of novel binding proteins in immune and brain cells that have not been found by previous biochemical methods. High-resolution live imaging of the genome and transcription factors has made it possible to reveal the process of gene transcription activation with great spatiotemporal accuracy. Furthermore, the speakers will report the latest methods to label proteins and organelles on the cell membrane by chemical covalent bonding. We aim that the discussion between speakers and the audience will provide novel insight into the research of many audiences.

Physicobiology of motor proteins

Organizers: Kumiko Hayashi (Tohoku University), Kei-ichi Okazaki (Institute for Molecular Science)

This is a theoretical niche symposium, covering a wide range of cutting-edge biophysical topics on various motor proteins, such as myosin, kinesin, dynein and F1, and their associate proteins, which started in 2020. Theories of Bayesian inference, machine learning, non-equilibrium statistical mechanics, extreme value analysis, and large-scale molecular dynamics simulation have been applied to understand motor protein-related phenomena. There is a demand to extract substantial information from experimental data using theoretical methods such as machine learning and artificial intelligence. The speakers of the symposium will provide new data analyses and simulation techniques to obtain innovative information on motor proteins.

Exploration of the new RNA world

Organizers: Tetsuro Hirose (Osaka University), Chen Lingling (Chinese Academy of Science, China)

RNA plays diverse molecular functions in various cellular processes. In postgenomic era, the genome-wide transcriptomic analyses revealed the remarkable complexity of RNA species synthesized from eukaryotic genomes. The discovery includes identification of numerous noncoding RNAs and the alternatively spliced- and/or chemically modified-RNAs. In addition, it appeared that eukaryotic gene expression is regulated at multiple posttranscriptional steps including stability, processing, transport and translation of RNAs. In these regulatory mechanisms, RNAs unexceptionally associate with specific RNA-binding proteins that often induce liquid-liquid phase separation which is a fundamental mechanism to regulate various biological processes. Thus, the versatile functions of RNA contribute to dynamically and efficiently orchestrate the regulatory mechanisms that underlies complex physiological phenomena in eukaryotic cells, and the aberrant regulation in these mechanisms cause onsets of various diseases. This symposium aims to explore the expanding new RNA world by particularly focusing on the research on noncoding RNA biology and epi-transcriptome.

Combinatorial single cell and imaging analyses dissecting immune

Organizers: Masaru Ishii (Osaka University), Ng Lai Guan (A-Star, Singapore)

Organisms such as animals are shaped by organizational dynamics, and the spatiotemporal control of dynamic cellular movement in the body is crucial for life activity. A typical example is the immune system. Lymphocytes and macrophages migrate to every region of the body and gather in specific environments to exchange information and maintain normal immune responses. Recent advances in cutting-edge technologies such as intravital imaging and single-cell analyses have enabled us to comprehensively investigate dynamic behaviors and their cellular/molecular basis in vivo. In this symposium, speakers with diverse expertise, including single-cell transcriptome/metabolome analyses as well as intravital imaging techniques, present the latest updates on the elucidation of heterogeneous population of cell types and their dynamic features, and discuss the future perspectives on such combinatory approaches for understanding dynamic life systems.

WPI joint symposium for interdisciplinary life sciences

Organizers: Noriyuki Kodera (Kanazawa University), Mineko Kengaku (Kyoto University)

Under the "World Premier International Research Center Initiative (WPI)", which was launched in 2007, more than ten research centers have been established to date, and the world's highest level of research is being conducted. One goal of this project is the creation of interdisciplinary research areas. In this syposium, the young and extremely talented PIs recomended by the directors of the six research centers, the Institute for Chemical Reaction Design and Discovery (ICReDD) at Hokkaido University, the Advanced Institute for Materials Research (AIMR) at Tohoku University, the Earth-Life Science Institute (ELSI) at Tokyo Iinsititute of Technlogy, the Nano Life Science Institute (NanoLSI) at Kanazawa University, the Institute of Transformative Bio-Molecules (ITbM) at Nagoya University and the Institute for Integrated Cell-Material Sciences (iCeMS) at Kyoto University, will give lectures on their cutting edge research. The six centers cover a wide range of research fields. We thus hope this symposium will help exchanges of ideas across the research centers and strengthen the connection between young and talented researchers including the audience.

Cell and Tissue Mechanics in Development

Organizers: Fumio Motegi (Hokkaido University), Rong Li (Mechanobiology Institute, Singapore)

Biological systems are not only able to sense chemical cues but also physical factors such as force and geometry. However, it remains largely unknown about how forces can influence the establishment of tissues and organs during development. Recent studies re-conceptuarized tissue morphogenesis as a self-organizing process governed by feedbacks between fate, polarity, and mechanical forces. Given that forces can be transmitted in the range of milliseconds across cells and tissues that are not necessarily in close proximity, integration of forces facilitates efficient patterning across long distances. In the meantime, feedbacks from fate and polarity can change cellular mechanical properties, leading to progressive self-tuning of biological systems during development. This symposium aims to cover recent advancement on understanding the basic principles of how cellular mechanics (force and forms) are coordinated with chemical signalling (fate and function) across multiple scales in space and time.

Singularity in bio-science research by Trans-Scale Imaging

Organizer: Takeharu Nagai (Osaka University)

With the remarkable progress of bio-imaging technology, it is becoming possible to acquire huge amounts of image data as digital information in a high-throughput manner from biological tissues, which are large-scale complex systems. This trend will inevitably accelerate data-driven research using AI, and has the potential to fundamentally overturn the conventional methodology of life science research. In this symposium, we will introduce the latest findings on imaging methods that enable the acquisition of trans-scale image data, their application to life science research, and cloud data management, and discuss the prospects for next-generation life science research.

How can physics contribute to biology?

Organizer: Yasushi Okada (RIKEN/The University of Tokyo)

In the early 20th century, physicists made a major contribution to the dawn of molecular biology. In the nearly one century since then, technological advancement enabled more precise and quantitative measurement of the biological phenomena. Theories of physics have also progressed. Remarkable achievements have been made in statistical physics, many-body physics, and related theories that would potentially contribute to the understanding of the biological phenomena. This would be a good opportunity to review biology from a new perspective of physics theory. Intracellular liquid-liquid phase separation would be a good example. This symposium will feature researchers who are active in the new boundary area between physics and biology.

Role of epigenetic regulation in mammalian health and disease

Organizers: Makoto Tachibana (Osaka University), Sung Hee Baek (Seoul National University, Korea)

Our body contains a variety of cell types, all of which are derived from a single fertilized egg. During mammalian development, various epigenetic regulatory systems coordinately establish cell-type specific epigenomes. Epigenetic regulatory systems also contribute to the inheritance of epigenome throughout generations. Furthermore, it has also become clear that of aberrant epigenetic regulation is closely linked to the onset of diseases. In the first half of this symposium, we will focus on the mechanism of the correct establishment and maintenance of epigenome and its biological significance in early mammalian life stage. In the second half of this symposium, we will focus on the role of epigenetic regulatory systems in the onset of diseases, such as cancer.

Mammalian Synthetic Biology

Organizers: Nozomu Yachie (The University of British Columbia, Canada), Nika Shakiba (The University of British Columbia, Canada)

In mammalian systems (development and homeostasis), cells proliferate, communicate and change their functions to form diverse structures, including organs in the body. To enable this, cells dynamically exchange and transmit signals to each other, which swim through intercellular cascades to trigger gene expression patterns that progressively shape multicellular architectures under the constraints of the molecular networks embedded within the cells. The complete picture of how cells and molecules orchestrate to develop and maintain the complex multicellular systems that compose our bodies remains largely obscure. Today, our abilities to engineer mammalian genomes, implement synthetic genetic circuits, observe single cells within organ architectures, and model cell state and tissue dynamics have rapidly accelerated our understanding of these systems. This symposium will feature researchers developing new synthetic biology and computational technologies and addressing key biological questions that probe the rules governing mammalian cells. We invite the audience to be actively engaged in discussing how we envision engineering approaches that can be used to expand our understanding of mammalian systems.

◆公募ワークショップ（約 100 テーマ採択予定）

会員より企画を公募します。後述の募集要項をご参照の上、奮ってご応募ください。

◆一般演題（ショートトーク・ポスター）

本年会では一般演題の投稿者から希望を募り、ポスター発表と併せてショートトークを行っていただく予定です。

演題投稿の受付開始は 7 月 1 日㈮を予定しております。44 回年会と同様にプログラム集冊子の制作を廃止し、投稿期間をなるべく長く設けることを検討しています。詳細は 2 月発行の次回会報、および年会ホームページにてご案内いたします。多数の演題投稿をお待ちしております。

◆フォーラム（一部一般公開を予定）

生命科学と関連するが、シンポジウムやワークショップ形式にとらわれない、比較的自由度の高い企画や、技術開発あるいは社会との関連が深い企画を「フォーラム」と位置づけ、1 テーマ 90 分の夕方の時間枠で、会員の皆様より企画を公募します（公募時期：2022 年 2 ～ 4 月予定）。年会組織委員による特別企画フォーラムも計画中です。

◆ MBSJ-ASCB Joint Session

ASCB とのコラボレーション企画を開催いたします。

◆高校生発表

高校生による口頭・ポスター発表を予定しています。

◆バイオテクノロジーセミナー

企業との共催によるランチョンセミナーを開催いたします。

◆その他の企画

その他の企画は詳細が決まり次第、年会ホームページにてご案内いたします。

【ワークショップの企画公募について（1月31日㈪受付締切）】

本年会では、ワークショップの企画を会員の皆さまより公募いたします。ご提出いただいた企画案は、プログラム委員会において厳正なる審査を行い、採否を決定します。採否結果は2月下旬に応募者へご連絡いたします。下記要項をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

◆募集要項

ワークショップ

- 講演言語はオーガナイザーに一任とし、1テーマあたり、150分の時間枠で45テーマ、135分の時間枠で55テーマ程度を採択予定です（外国人演者がいる場合は、英語でお願いいたします）。
- 本年会では**一人一演題の制限を廃止します**。同一演者の登壇セッションの開催枠が同時間帯に割り振られた場合にいずれかのセッションで代理演者をたてていただくなど、演者･オーガナイザー間で調整可能な限り、ワークショップの講演者が他のシンポジウムやワークショップ、ポスターセッションでの発表を行うことを妨げません。
- 一般演題から複数演題の採択をお願いいたします。
- 発表スライドは講演言語にかかわらず、全演者に英語での作成をお願いします。専門用語などについてはスライドや口頭で補助的に日本語を使用することを推奨いたします。
- 企画提案いただくオーガナイザーは1名でも2名でも構いませんが、少なくとも1名は分子生物学会あるいは生物物理学会の会員であることが必須です（今回の年会は、日本生物物理学会の会員は日本分子生物学会の会員と同じ資格で参加できます）。
- 指定演者のうち少なくとも**30%程度は女性講演者としていただくことを応募条件とします**。
- 若手研究者がオーガナイザーや指定演者に入っている企画を優先して採択します。
- 本年会では日本国外の居住者等で移動が難しい場合にはオンラインでの口頭発表も可能とします。海外演者をオンサイトで招聘する場合には、年会から旅費（人数に関わらず1企画につき15万円）・宿泊（年会指定のホテルでの最大4泊分）を支給します（国内演者への旅費・滞在費・宿泊費の支給はありません）。
- 海外、国内を問わず、非会員（日本分子生物学会、日本生物物理学会のいずれの会員でもない）指定演者の参加費は免除とさせていただきます。
- 新学術領域、学術変革領域、CREST、さきがけ等の「冠」企画の実施も可能とします。ただし、班会議と同様の企画にならないよう、領域外の講演者を必ず含めてください。ホームページやプログラム集への冠表記には、20万円の協賛金の負担をお願いいたします。冠表記を希望する方は、応募サイトの該当欄へ掲載を希望する団体名等の必要事項をご入力ください。
- 企画採択されたオーガナイザーには、該当分野の一般演題の編成やショートトークセッションの座長ご就任を併せてお願いする場合があります。

◆応募要領

年会ホームページより専用の応募サイトにアクセスし、1月31日㈪までに下記の必要情報をご登録ください。

1）150分枠、135分枠のいずれを希望するかを選択
2）開催言語（日本語・英語・演者が選択）
3）タイトル（和文・英文）
4）オーガナイザーの氏名・所属（和文・英文）・性別・年代・職位
5）概要（和文・英文／和文全角200文字程度・英文半角400文字程度）
6）予定演者の氏名・所属・性別・年代・職位（応募時点での演者による講演承諾は不要です）
7）連絡窓口となるオーガナイザーの氏名、連絡先
8）「1. 対象・現象など」「2. 方法など」の分類からそれぞれ2つを選択（20頁の表参照）、3つのキーワード
9）予想される聴衆数
10）冠の有無、団体名

※企画の採否ならびに開催枠の割振りはプログラム委員会で最終決定いたしますので、希望に沿えない可能性もございますこと、ご了承ください。

【一般演題 発表分類一覧】

1. 対象・現象など

大項目		小項目	
1	分子	a	ゲノム・遺伝子・核酸
		b	DNA 複製
		c	組換え・変異・修復
		d	エピジェネティクス・クロマチン
		e	転写
		f	RNA・RNP
		g	翻訳
		h	タンパク質
		i	糖・脂質・代謝産物
		j	分子進化・比較ゲノム
		k	その他
2	細胞	a	染色体・核構造体
		b	相分離
		c	タンパク質プロセシング・輸送・局在化
		d	細胞質膜オルガネラ
		e	細胞接着・細胞運動・細胞外基質
		f	生体膜・細胞骨格
		g	細胞増殖・分裂・周期
		h	シグナル伝達（翻訳後修飾）
		i	シグナル伝達（生理活性物質）
		j	細胞死
		k	その他

大項目		小項目	
3	発生・再生	a	器官・形態形成・再生
		b	幹細胞
		c	細胞分化
		d	初期発生
		e	生殖
		f	その他
4	高次生命現象・疾患	a	共生微生物
		b	生物リズム
		c	脳・神経系・神経発生・構造
		d	脳・神経系・行動
		e	脳・神経系・疾患
		f	免疫
		g	感染・ウイルス
		h	老化
		i	がん細胞
		j	がん組織・がん治療
		k	代謝・栄養
		l	遺伝性疾患
		m	植物
		n	その他

2. 方法など

i	核酸工学・ゲノム編集
ii	タンパク質工学
iii	ゲノム工学・細胞工学
iv	発生工学・オルガノイド
v	光遺伝学・電気生理学
vi	システム生物学・合成生物学
vii	ケミカルバイオロジー
viii	構造生物学（X 線結晶構造解析・クライオ EM）
ix	機能予測・薬物設計
x	バイオインフォマティクス
xi	オミクス解析

xii	シングルセル解析
xiii	イメージング
xiv	超解像・特殊イメージング法
xv	画像解析・バイオイメージインフォマティクス
xvi	病因解析・診断
xvii	個体行動解析
xviii	スクリーニング
xix	ロボット・ラボラトリーオートメーション
xx	深層学習・機械学習
xxi	数理モデル・シミュレーション
xxii	その他

◆お問合せ先

第 45 回日本分子生物学会年会事務局（㈱エー・イー企画 内）
〒 101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4 階
Tel: 03-3230-2744　Fax: 03-3230-2479　E-mail: mbsj2022@aeplan.co.jp

【日程表（予定)】

11月30日（水）	プレナリーレクチャー	8:30–9:20
	シンポジウム ワークショップ	9：30–12：00
	学会企画	12:15–13:30
	バイテクセミナー	12：15–13：05
	ポスターショートトーク	13:30–14:30
	ポスター発表・討論	14:30–16:30
	ワークショップ	16:45–19:00
	フォーラム	19:15–20:45
12月1日（木）	プレナリーレクチャー	8:30–9:20
	シンポジウム ワークショップ	9：30–12：00
	学会企画	12:15–13:30
	バイテクセミナー	12：15–13：05
	ポスターショートトーク	13:30–14:30
	ポスター発表・討論	14:30–16:30
	ワークショップ	16:45–19:00
	フォーラム	19:15–20:45
12月2日（金）	プレナリーレクチャー	8:30–9:20
	シンポジウム ワークショップ	9：30–12：00
	バイテクセミナー	12:15–13:05
	ポスターショートトーク	13:15–14:15
	ポスター発表・討論	14:15–16:15
	ワークショップ	16:30–18:15

※あくまで2021年11月時点での予定であり、今後変更される可能性があります

◆特定非営利活動法人　日本分子生物学会　第22期第2回（臨時）理事会記録

日　時：2021年6月25日㈮　10：00～11：30
場　所：オンライン開催（Zoom）
出席者：白髭克彦（理事長）、水島　昇（副理事長）、杉本亜砂子（副理事長）、深川竜郎（2022年会長）、原　英二（広報幹事兼）、東山哲也（会計幹事兼）、小林武彦、近藤　滋、条　昭苑、倉永英里奈、本橋ほづみ、中川真一、中山潤一、仁科博史、丹羽隆介、斉藤典子、佐々木裕之、塩見美喜子（2021年会長）、田中啓二、泊　幸秀、上村　匡（編集幹事兼）、吉森　保、荒木弘之（監事）、木村　宏（庶務幹事/2024年会長）、岡田由紀（庶務幹事）、林　茂生（国際化担当幹事/2023年会長）、以上26名
欠席者：一條秀憲、見學美根子、小安重夫、斎藤通紀、佐谷秀行、塩見春彦、吉田　稔、吉村昭彦、石野史敏（監事）、以上9名
事務局：福田　博、金子香奈里、並木孝憲、山口恵子（記録）

本理事会成立について：

木村宏庶務幹事より、理事22名、監事1名、幹事3名が出席し、委任状8名（理事）を受理しており、本理事会は細則第4章第8条により成立する旨報告された。

議事録署名人の選任について：

白髭克彦理事長より、議事録署名人として、小林武彦理事と斉藤典子理事が指名され、承認された。

議　事：

1. 2025年（第48回）年会長選出について

白髭理事長より、第48回年会については、年会長を東京大学定量生命科学研究所 小林武彦会員に依頼したいことが諮られ、承認された。

2. 2026年（第49回）年会長選出について

白髭理事長より、第49回年会については、年会長を東京大学大学院医学系研究科 水島　昇会員に依頼したいことが諮られ、承認された。水島氏より、同年会を日本生化学会との合同開催形式にしたいとの提案があり、承認された。

3. 理事長報告

白髭理事長より執行部での検討・賛同を経て、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴う新型コロナウイルス感染拡大リスクに関する提言」（コロナ専門家有志の会、2021年6月18日発表）についての理事長談話を6月24日付で発信（学会HPに掲載）したことが報告された。

4. 2021年（第44回）横浜年会準備状況報告

塩見美喜子年会長より第44回年会準備状況についての報告がなされた。

○会　期：2021年12月1日㈬～3日㈮
○会　場：パシフィコ横浜
○組織委員会：

年会長	塩見美喜子（東京大学）
組織委員長	小林　武彦（東京大学）
プログラム委員長	胡桃坂仁志（東京大学）
組織委員	東山　哲也（東京大学/名古屋大学）、岩崎　由香（慶應義塾大学）

現在は完全オンサイト開催規模での使用を想定してポスター・展示会場・講演会場を押さえつつ、かつ一部講演・ポスター等がオンライン対応となる可能性も想定して準備を進めている。事前参加登録及び演題登録は予定通り7月1日から受付を開始するが、年会をどのような形で開催するかは、引き続きワクチン接種の進捗等、国内外の状況を見据えて判断することになる。会場費のキャンセル料は会期1か月前まで現在と同じ50%である。適切なタイミングで判断

をしたい。

ハイブリッド形式での開催準備に必要な予算確保のための措置として、展示広告メニューの強化や、冊子体プログラム及びアプリの作成をしない等のコスト削減を行った。年会参加費については正会員及び非会員の参加費を過去2年の年会時（2019福岡年会、MBSJ2020 Online）より値上げすることとした。年会参加費の設定について出席の理事等からは、参加者にとってハイブリッド形式は提供されるものが増えることになり、完全オンサイト開催時より参加費が上がっても納得できるのではないかといった賛同の意見が集まった。

塩見年会長より、できるだけ収入増・コスト削減の努力を続けるが、やむをえず赤字となった際には学会本体の協力をお願いしたいとの発言があり、理事会で了承された。

5. 2022年（第45回）年会について

深川竜郎年会長より第45回年会準備状況についての報告がなされた。

〇会　期：2022年11月30日㈬〜12月2日㈮

〇会　場：幕張メッセ

〇組織委員会：

年会長	深川　竜郎（大阪大学）
副年会長	永井　健治（大阪大学）
組織委員長	原田　慶恵（大阪大学）
プログラム委員長	甲斐　歳惠（大阪大学）
組織委員	樺山　一哉（大阪大学）、神田　元紀（理化学研究所）、須藤　雄気（岡山大学）、野間健太郎（名古屋大学）、茂木　文夫（北海道大学）
プログラム委員	石井　　優（大阪大学）、岡田　康志（理化学研究所／東京大学）、古寺　哲幸（金沢大学）、立花　　誠（大阪大学）、林　久美子（東北大学）、坂内　博子（早稲田大学）、廣瀬　哲郎（大阪大学）、谷内江　望（Univ. of British Colombia）

第45回年会は日本生物物理学会と連携して企画検討を進めており、コロナの状況に関わらずオンラインツールの併用を視野に入れている。新しい切り口の年会企画提案を求めて組織委員を公募し、応募者の中から新たに2名の組織委員を追加した。

第一線で活躍する海外の研究者3名からプレナリーレクチャーの内諾を得た。また、デジタルポスターブースを設けて口頭発表希望者を募り、1題3分、1日200題程度のショートトークの開催を計画している。年会国際化に向けた新しい試みとして、自動翻訳機能の導入を検討中である。出展企業の誘致対策としては展示会場内に設置する特設会場を活かした企画や年会ノベルティ製作などを考えている。海外からのオンライン演者の時差に配慮したセッションの時間割振りやオンラインでの「朝まで企画」など、従来にはなかった日程表の検討を行っている。キャリアパス委員会とのコラボレーションで「ダイバーシティ」「海外からのJobハント」「アカデミアの起業等」をテーマにしたセッションの企画も動き出している。

6. 2023年（第46回）年会について

林　茂生年会長より第46回年会準備状況についての報告がなされた。

〇会　期：2023年12月6日㈬〜8日㈮の3日間＋その前のオンライン期間（約1週間）

〇会　場：神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル　※オンライン、オンサイト併用開催

〇組織委員会：

年会長	林　　茂生（理化学研究所・生命機能科学研究センター）
組織委員長	榎本　秀樹（神戸大学大学院医学研究科）
プログラム委員長	平谷伊智朗（理化学研究所・生命機能科学研究センター）
組織委員	岡田　由紀（東京大学定量生命科学研究所）、川口　喬吾（理化学研究所・生命機能科学研究センター）、久保　　郁（国立遺伝学研究所・新分野創造センター）、宮道　和成（理化学研究所・生命機能科学研究センター）

MBSJ2020 Onlineの年会アンケート結果から、参加者の満足度が上がる年会について分析を試みた。

・「オンサイトに比重を置いたオンライン、オンサイト併用開催」の希望が多い印象である。

・オンサイトでは「気兼ねなく最新データを出して議論できるクローズドな講演」、オンラインでは「最新データは含

まれなくても参加者が興味深く学術的価値が高いと感じる講演」の企画を集めやすいと思われる。
・英語での講演・質疑に対して言語の壁を感じる参加者もいるが、英語セッションでの日本語補助説明や英語字幕、事後のオンデマンド配信などがあれば全体的な満足度は上げられると思われる（日本語と英語 / 他言語との双方向に対応できることがより望ましい）。

これらの結果などをもとに、オンサイト・オンラインそれぞれの特長を活かす「オンライン、オンサイト併用開催」を構想中である。具体的には以下を検討している。

・神戸会場でのオンサイト会期前にオンライン開催の期間を設ける。
・オンラインの基地局設営コストとオンサイトの会場費を双方抑える。
  ※オンライン：3〜4 回線（チャネル）×3 枠 / 日×5 日程度、オンサイト：14 会場程度 / 日×3 日とすると、近年のオンサイト単独開催年会での講演数をほぼカバーしつつ完全オンサイトに比べ会場費節約となる数の会場がリリースできる試算となる.
・オンライン期間の講演セッションはすべて英語とする。自動翻訳ツール・字幕などの活用も検討する。
・オンライン期間の講演セッションはオンデマンド配信を条件とし、オンサイトの講演セッションはプレナリー以外オンデマンド配信をしない想定とする。

続いて、深川年会長及び林年会長より、第 45 回･第 46 回年会で連携して開発を検討している「年会アシスト機能（リコメンド）：Research Connector（ReCo）」についての説明があった。参加者が興味深く感じる演題のタイトルや研究・発表をしている研究者名等を効率的に絞り込めるツールを導入して､参加者の満足度向上を目指す。監修は専門分野（自然言語処理・科学社会学など）の研究者に依頼し、実際の開発は業者に 2 年連続契約で委託する。2022 年会で実装し、2023 年会で改良を加えて継続利用する予定である。出席の理事等からは ReCo に対する賛同の意見が寄せられた。

7. 2024 年（第 47 回）年会について

木村　宏年会長より第 47 回年会準備状況についての報告がなされた。

○組織委員会：

年会長	木村　　宏	（東京工業大学科学技術創成研究院）
副年会長	粂　　昭苑	（東京工業大学生命理工学院）
組織委員長	岩﨑　博史	（東京工業大学科学技術創成研究院）
プログラム委員長	松浦　友亮	（東京工業大学地球生命研究所）

※引き続き、組織委員メンバーの追加を検討中.

会期は 2024 年 12 月上旬、ハイブリッド形式での開催を予定している。開催地として 3 会場を検討しており、費用の面からも福岡を最有力候補として調整中である。夏までには会場を決定したい。西東京・関東近郊や開催地所属の方などでプログラム委員会を検討する予定である。

8. その他

・荒木弘之監事より、分子生物学会の年会は規模が大きいため従来の完全オンサイト年会では開催できる都市が限定されてきたが、今後の年会でオンライン・オンサイト併用形式やハイブリッド形式が導入されると、方法によっては様々な地方都市での年会開催も可能になるのではないかとの意見があった。本学会は特定非営利活動法人（NPO 法人）であり、広く一般に分子生物学を広めることを学会のミッションとして掲げており、地方都市での年会開催実現はそれに合致することでもある。分子生物学会では協賛企業からポスター会場に併設される形でのオンサイト出展を望む声が多くあるが、例えば札幌や仙台、名古屋などであれば、ある程度の規模のポスター・展示会場を設営できる会場もある。
  荒木監事の発言を受け、開催形式や開催地の選択も含めたこれからの年会のあり方について、引き続き議論を続けていきたい。

・横浜での年会開催はパシフィコ横浜の値上げ前の会場費で予約できた今年の第 44 回年会が最後となる見通しだったが、複数年契約による値引き交渉や年会参加費設定の見直しなども視野に入れて、今後も会場選定の際に横浜を選択肢に残すのも一案であるとの意見があった。

・白髭理事長及び出席理事等より EMBO の動向について情報提供があり、意見交換がなされた。EMBO は将来的に日

本がEMBO準加盟国となるという国家レベルでの協力体制を希望している。日本の若手研究者にとっては望ましいが、毎年約2億円の協力金を国家予算から拠出することが求められるため、現状では実現は難しいと思われる。学会としてはEMBOと引き続き国際協調路線で現在の良好な関係を維持し、研究者レベルでの交流を続けるのが良いのではないかとの意見があった。一方で、このような案件は国からのトップダウンで動くとは考えにくく、学会からボトムアップの働きかけをしたほうがよいのではとの見方も示された。

上記、第22期第2回（臨時）理事会の議決および確認事項を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名する。

2021年6月25日

特定非営利活動法人　日本分子生物学会
第22期第2回（臨時）理事会

議　　　長　　白　髭　克　彦
議事録署名人　　小　林　武　彦
議事録署名人　　斉　藤　典　子

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、本号に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

1)本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）

2)本学会の選考委員会用に、上記申請書類のコピー1部

3)論文（別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です）

4)上記1）2）3）の送付とは別に、学会用控として申請書の電子データ（論文は不要）を学会事務局〈info@mbsj.jp〉まで送信して下さい。

電子データはWord、PDFファイルのいずれでも結構です。

＊必ず学会の締切日までに郵送資料と電子データの両方が到着するようにご手配下さい。

2. 提出先

※<u>賞推薦についての送付先</u>

日本分子生物学会・賞推薦委員長　泊　幸秀

〒102-0072　千代田区飯田橋2-11-5

人材開発ビル4階

日本分子生物学会事務局気付

※<u>研究助成についての送付先</u>

日本分子生物学会・研究助成選考委員長　一條　秀憲

〒102-0072　千代田区飯田橋2-11-5

人材開発ビル4階

日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がありましたら、学会事務局までお問合わせ下さい。

※研究助成（学会推薦）に関する留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。

応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いします。

※各種学術賞（学会推薦）に関する留意事項

- 委員会の内規により、外部財団等の各種学術賞への推薦は、原則として一人につき年度あたり1件となっておりますので、ご了解ください。
（本学会の事業年度は10月1日から翌年9月30日までです）
- 重複申請があった場合、すでにある賞等の推薦が決定されている候補者は、それ以降審査する他の賞等の推薦候補者として原則的に考慮いたしません。応募に際し、ご留意くださるようお願いします。

第22期役員・幹事・各委員会名簿

理事長　（任期：2021年1月1日～2022年12月31日）

白髭　克彦（東大・定量研）

副理事長

水島　昇（東大・医）、杉本亜砂子（東北大・生命）

理　事

深川　竜郎（阪大・生命）
東山　哲也（東大・理）
見學美根子（京大・iCeMS）
近藤　　滋（阪大・生命）
粂　　昭苑（東工大・生命理工）
本橋ほづみ（東北大・加齢研）
中山　潤一（基生研）
丹羽　隆介（筑波大・TARAセンター）
斎藤　通紀（京大・医）
佐谷　秀行（慶應大・医）
塩見美喜子（東大・理）
泊　　幸秀（東大・定量研）
吉田　　稔（理研・和光）
吉村　昭彦（慶應大・医）
原　　英二（阪大・微研）
一條　秀憲（東大・薬）
小林　武彦（東大・定量研）
小安　重夫（理研・IMS）
倉永英里奈（東北大・生命）
中川　真一（北大・薬）
仁科　博史（医科歯科大・難治研）
斉藤　典子（がん研）
佐々木裕之（九大・生医研）
塩見　春彦（慶應大・医）
田中　啓二（都医学研）
上村　　匡（京大・生命）
吉森　　保（阪大・医）

（アルファベット順）

監　事　荒木　弘之（データサイエンス共同利用基盤施設/遺伝研）、石野　史敏（医科歯科大・難治研）

幹　事

庶務幹事	木村　　宏（東工大・科学技術創成研究院）、岡田　由紀（東大・定量研）
会計幹事	東山　哲也（東大・理）
編集幹事	上村　　匡（京大・生命）
広報幹事	原　　英二（阪大・微研）
国際化担当幹事	林　　茂生（理研・BDR）
集会幹事	塩見美喜子（第44回年会）、深川　竜郎（第45回年会）

第22期執行部	白髭理事長、杉本副理事長、水島副理事長、木村庶務幹事、岡田庶務幹事、東山会計幹事、上村編集幹事、原広報幹事、林国際化担当幹事、一條研究助成選考委員長

Genes to Cells 編集長	西田栄介（理研・BDR）
賞推薦委員会	泊　幸秀（委員長）、粂　昭苑、斎藤通紀、本橋ほづみ、吉村昭彦
研究助成選考委員会	一條秀憲（委員長）、見學美根子、佐々木裕之、吉田　稔、吉森　保
国際会議支援・選考委員会	小林武彦（委員長）、小安重夫、近藤　滋、中川真一、丹羽隆介
キャリアパス委員会	斉藤典子（委員長）、木村　宏（副委員長）、石谷　太、井関祥子、岩崎由香、鐘巻将人、來生（道下）江利子、倉永英里奈、島田　緑、鈴木淳史、多田政子、林　克彦、菱田　卓、平谷伊智朗
研究倫理委員会	中山潤一（委員長）、佐谷秀行、仁科博史、深川竜郎、西山朋子（特別委員）
生命科学教育	塩見春彦（担当理事）、岩崎　渉（委員）

日本分子生物学会　賛助会員一覧

（2021 年 11 月現在）

アサヒグループホールディングス株式会社
株式会社エー・イー企画
科研製薬株式会社 新薬創生センター
コスモ・バイオ株式会社
株式会社 seeDNA 法医学研究所
ジェンスクリプトジャパン株式会社
第一三共株式会社 モダリティ研究所
タカラバイオ株式会社 事業開発部
株式会社ダスキン 開発研究所
中外製薬株式会社
株式会社東海電子顕微鏡解析
東洋紡株式会社 バイオテクサポート事業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 開発企画部広報課
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
富士レビオ株式会社 研究推進部バイオ研究グループ
フナコシ株式会社
三菱ケミカル株式会社
ヤマサ醤油株式会社 R & D 管理室
湧永製薬株式会社 研究管理部研究管理課
ワケンビーテック株式会社 学術部

（22 社、50 音順）

■第 45 回日本分子生物学会年会（MBSJ2022）公式サイト
URL: https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2022/

■日本分子生物学会 Facebook 公式アカウント
URL: https://www.facebook.com/mbsj1978/

特定非営利活動法人

日本分子生物学会　事務局

〒 102-0072　東京都千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
TEL: 03-3556-9600　FAX: 03-3556-9611
E-mail: info@mbsj.jp

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報
（年３回刊行）
第 131号（2021年11月）
発 行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会
代表者——白髭 克彦